

生徒が積極的に英語でコミュニケーションを図る授業づくりについての研究  
～オーラルイントロダクションを使った導入の工夫～

三重県教育委員会事務局  
研修推進課 教科等研修班  
研修員 渡邊 佳苗

## I 研究の目的

グローバル化が急速に進展する中、ますます英語でコミュニケーションを図り行動する力が必要になってくる。中学校では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成していかなければならない。しかし、依然として文法を中心に教えているという現状がある。今後、英語を世界中の人々とコミュニケーションを図るための言語の一つとしてとらえ、身近なことを中心に英語で表現する能力を身につけられるような授業づくりをしていかなければならない。そのためには、授業の中で英語を使う場面を増やす必要がある。そこで、新教材を英語で導入するオーラルイントロダクションに焦点をあてた授業づくりの研究を進めることとした。

## II 研究の内容

### 1 授業実践に向けて

#### (1) オーラルイントロダクションの実践について

オーラルイントロダクションは英語の授業において、英語を使って言語材料・教科書の題材内容などの新教材を導入する方法のひとつである。これまで自分自身も、オーラルイントロダクションを用いた英語の授業を行っていたが、教師が一方的に英語を話し、生徒が受け身的になるという課題があった。そこで、生徒が主体的に参加できるよう、生徒と会話のやりとりを通したオーラルイントロダクションを用いた授業実践を行うこととした。

#### (2) 小学校外国語活動についての研修

オーラルイントロダクションで新教材を導入するにあたり、生徒が知っている単語・表現を用いることが求められるため、小学校外国語活動の内容について研修をした。文献や文部科学省から出されている授業実践例のDVDにより理解を深めた。小学校外国語活動の教材である「Hi, friends!」に出てくる語彙や表現についての研修も行った。また、6月に協力校の校区にある小学校2校を訪問した。小学校外国語活動の授業を参観し、各学校の6年生の学級担任とALTから話を聞いた。2校とも同じALTが、「Hi, friends!」に沿って内容を考え英語で進めており、共通の土台を持って中学校に入学してくることが分かった。

### 2 授業実践の概要

協力校の第1学年の生徒（155名）を対象に3回の授業実践を行った。

#### 【授業実践時期と単元】

| 時期  | 単元及び計画   |
|-----|--|
| 7月  | ○授業実践1（実施日：7月8日）<br>「Lesson3 GET Part2」 言語材料：Do you ～? Yes, I do. / No, I don't.（一般動詞の疑問文） |
| 10月 | ○授業実践2-1、2-2（実施日：10月27・28日）<br>「Lesson6 GET Part1」 言語材料：Miki plays tennis.（三人称単数現在形）       |
| 12月 | ○授業実践3（実施日：12月2日）<br>「Lesson7 GET Part1」 言語材料：Koji can play the piano.（canの肯定文）            |

以下に示す4点に着目し、授業実践を行った。

### (1) 小学校外国語活動の学びの活用

オーラルイントロダクションで「Hi, friends!」のチャンツを聞かせたり、基本文の定着のための練習で「Hi, friends!」に出てくる表現を用いたりした。実践1では、チャンツを聞かせたことにより、「Do you~?」の表現を思い出し、スムーズに質問に答えたり質問したりできていた。実践3では、基本文定着の練習で用いた表現を言語活動の中で活用している生徒もいた。

### (2) 会話のやりとりを通したオーラルイントロダクション

何名かの生徒を指名して、会話のやりとりを通したオーラルイントロダクションを行った。生徒は、緊張感もあり、集中して聞くことができていた。また、友達がどのように答えるか、関心を持って聞くことができていたとも言える。新出文法について、会話の中から新しい表現の意味を推測したり、使い方について考えることができていた。また、生徒にとって分かりやすいオーラルイントロダクションを行うために、ジェスチャーをしたり、例を挙げたり、言い換えたりする工夫が大切であることが分かった。

### (3) オーラルイントロダクションとつながりのある言語活動

|   |
|---|
| <p>1 例文を参考に、自分ができるところ、自分の家族や友達などの人（ペットやアニメのキャラクターでもよい）ができることを紹介する文を書いてみよう。</p> <p>例1) I like Arashi. I listen to Arashi's songs every day. So, I can sing their songs.<br/>My sister likes Sexy Zone. She can sing their songs.</p> <p>例2) I like hula. I can dance hula.<br/>My mother likes dancing too. She can dance social dancing (社交ダンス) very well.<br/>とても上手に</p> <p>※教科書P81の「Word Corner—いろいろな動作」も参考にしましょう。</p> <p>I like Vocaloid. I listen to Vocaloid songs.</p> <p>I can sing their songs. the best song is Rokuberu.</p> <p>My brother likes Vocaloid too. He can sing their songs.</p> |
|---|

オーラルイントロダクションで行った会話が、その後の言語活動でのモデルやヒントとなるようにした。【図1】は、実践3の言語活動で用いたワークシートである。例1)を参考にして好きな音楽の話題で書いている。オーラルイントロダクションで用いた表現を参考に、前後に加えて書くことができていた。また、「the best song is Rokuberu.」というように、自分が知っている表現を加えて書いている。このように、これまで習った表現や自分が知っている表現を用いて、自分が伝えたいことを書くことができていた。

【図1】

### (4) 会話を続けることを目標にした言語活動

ペアでの会話で「ひと言付け加える」「相手に聞き返す」「相手の言葉に反応する」という目標を持って言語活動に取り組みさせた。言語活動を形式的な練習とせず、また一方向の「問い」と「答え」で終わらせるのではなく、より積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、これらの活動を取り入れた。生徒に、相手が自分の言葉に反応してくれることの嬉しさ、また、会話が続いていくことのおもしろさを感じさせ、また、英語を話したいという気持ちにさせることができた。

## III 成果と課題

### 1 成果

会話のやりとりを通したオーラルイントロダクションを行うことにより、生徒に、興味・関心を持って話を聞かせることができた。そして、具体的な場面や状況に合わせて、伝えたいことを、生徒が自ら考え表現させることができた。また、ひと言付け加えたり、聞き返したり、相手の言葉に反応したりする活動を取り入れることで、コミュニケーションを円滑にし、言語活動を活発にさせることができた。

今回行った2(1)~(4)に示した4つの実践は、生徒が主体的に授業に参加し、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとすることに効果的であることが分かった。

### 2 課題

小学校外国語活動での学びを活用した授業は、今後系統立てて授業を考えていく必要がある。また、新出文法のオーラルイントロダクションだけに限らず、教科書の本文の内容を扱う時なども、教師が積極的に英語を使うことが大切である。そして、今回は、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」が中心になっており「読むこと」という活動に踏み込めなかった。4つの技能をバランスよく育成するための活動を考え、取り入れていく必要がある。